

宮代町郷土資料館だより

えんがわ

第17号

平成11年度企画展

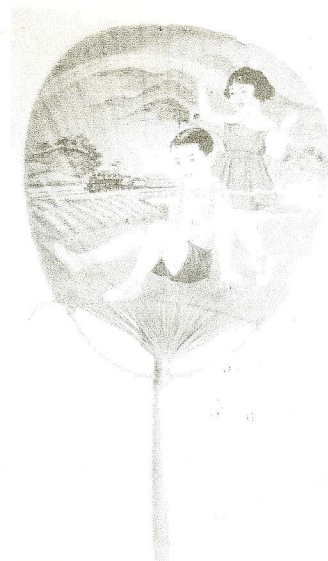
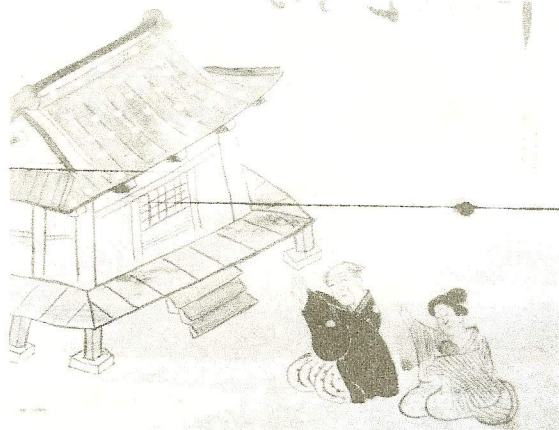
「子育ての祈りと願い」

いにしえの歌人、山上憶良は万葉集で「銀（しろかね）も黄金も玉も何せむに優れる宝子にしかめやも」と詠みました。いつの時代も子をいつくしむ気持ちは変わらないものです。医療が発達していなかった時代、「七歳までは神の子」といわれ、子供は神仏の加護なくして、育たないと考えられていました。それは7歳になるまでの間、さまざまに行われた儀礼などからも知ることができます。

今回の企画展は宮代町の子育ての風習にみられる信仰や祈りの形を紹介します。安産祈願をした社寺や奉納物、そして生後の宮参り、初山などの行事など、少し前までごく当たり前のこととして行われていた子育てについて展示します。また、今年（平成11年）は明治32年（1899）産婆規則が制定され、現在の助産婦の資格制度がスタートして100年目にあたります。宮代町でも家庭分娩が広く行われていた昭和40年代まで産婆さんが出産の担い手でした。産婆さんが使っていた分娩道具などの貴重な資料もあわせて展示します。

期間 平成11年12月15日（水）～平成12年2月6日（日）

会場 宮代町郷土資料館特別展示室



秋の催し物の報告

『中秋の名月お月見会』が9月24日に資料館の旧加藤家で開催されました。当日、参加者は22名ほど集まりました。参加者と資料館の職員によって石臼で大豆をひいたり、お団子を作りかまどで蒸して出来たものを供えたり食したりしました。参加者の中には、手馴れない職員に石臼の上手な挽きかたを指導してくださる方もいて勉強不足を実感しました。かまどで団子を蒸している間には宮代おはなしの会「スウス」の皆様により、月にまつわる昔話がありました。子供から大人まで参加者の皆さんは楽しそうに聞きいつていました。1つだけ残念だったのは、今年は天気が悪くお月見ができなかったことでした。

演奏会『琵琶のしらべ』が10月16日に開催されました。資料館の中庭で自然の息吹を感じながら聞いていただく予定でしたが、あいにくの天気のため旧加藤家での開催となりました。しかし、結果として、これにより一段と会場は古典芸能の雰囲気づくりができました。参加者は43名ほど

集まり、会場に用意された座布団が足りなくなるほどの盛況振りでした。演目が司会者により紹介され琵琶の演奏が始まると、集まった人々は、熱心に聞きいつていました。演目は季節感のある秋にちなんだ曲や昔ばなしの曲でしたので、子供達も楽しそうに聞いていました。演奏が終了し最後には琵琶のひきかたを奏者の菊地襲次郎さんから教わり、皆さんは琵琶にふれ親しむこともでき、琵琶を堪能しているようでした。



特別展「江戸時代の旅と絵馬」開催される

平成11年度特別展「江戸時代の旅と絵馬」が11月2日から開催されています。江戸時代の天保12年に西国を旅した百間の清次郎さんの「道中日記」(旅日記)から当時の旅を復元しました。また、旅の無事を祈り、また感謝し奉納された絵馬や当時の旅の道具も展示しました。あわせて会期中、講座、講演会、体験学習、展示説明会を行いました。

講座「道中日記にみる江戸時代の旅」町史編集委員林貴史氏 清次郎さんの旅をくわしく解説していただきました。

講演会「江戸時代の旅にみる浮世絵と絵馬」調布学園短期大学教授小沢弘氏 江戸時代の旅の

内情や旅の浮世絵や絵馬の製作などについてご講演いただきました。

体験学習「絵馬づくり教室」町史調査員堀江清隆氏 絵馬の歴史を学んだ後、思いのままに絵を描きました。

いずれも多数の皆様のご参加をいただき、大変好評でした。



収蔵資料の紹介

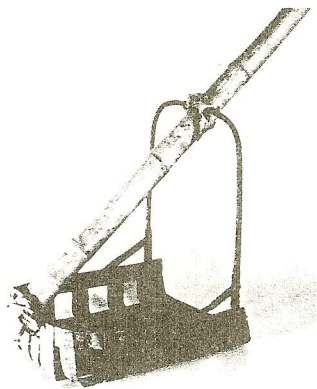
のろあげじょれん

町内の笠原沼は、江戸時代中期には井沢弥惣兵衛によって大掛かりな新田開発が行われ、「堀り上田」として生まれ変わりました。その結果、調整池としての機能を持った「ほっつけ」と呼ばれる縦長の池が多数掘られました。今回紹介する「のろあげじょれん」は、年1回、こうした「ほっつけ」の底にたまった土をあげるための道具として使われました。

「のろあげじょれん」は、枝の長さが約2.7メートル程で、先に鉄で出来た縦35センチ、幅24.5センチの網目状の底をした「じょれん」がついているものです。毎年、6月の下旬に行われる田植えの20日位まえに「のろあげ」が行われ、沼の底にたまった土をあげました。土は草が腐ったりしてたまったもので、非常に栄養分を含

んでおり、畔をつくるために用いられたとともに、水田に撒き散らし肥料としても非常に有効であったようです。

「ほっつけ」は、長いもので150mもあり、いくつもの田んぼを持っている人は水を含んだのろをあげるのに数キロもやせるなど非常に大変な作業であったようです。



資料館あらがると

町史編さん事業 民俗調査から 甘酒づくり

11月2日、和戸沖の山地区で甘酒づくりが行われました。これは翌3日に行われる天神社の甘酒祭りでふるまわれるもので、その前日に今年の当番のヤドに集まり、甘酒のしこみをしました。昔は、一軒ずつ新米を集めたということですが現在はご飯を5合ずつ7軒が持ち寄り、冷ましてこうじと混ぜます。その後、人肌に冷ましたお湯をいれてよくかき混ぜます。甘酒は上手に作らないと酸っぱくなってしまうので、祭りが始まるまで30分に一度はよく混ぜます。そのためヤドの家では徹夜をしたということです。郷土資料館ではこのように甘酒づくりを見せていただくのははじめてでしたが、昔ながらの作り方を記録することができました。宮代町史民俗編にその成果を反

映させていきたいと考えています。また、地区の伝統行事を陰で支えている方々のご苦勞を知るとともにその和気あいあいとした雰囲気にもうらやましさも感じました。



企画展 「The 笠原沼」

今回の企画展では、笠原沼の開発の歴史や笠原沼での耕作方法など歴史から民俗まで多岐にわたり展示する予定です。笠原沼開発前の水争いの古文書や絵図は、下流の用水源としての笠原沼の状況を示すものであり貴重なものといえます。今回の展示では、笠原沼開発の様子を模型で3段階に分け展示する予定で小学生の笠原沼の勉強には最適なものといえましょう。

この笠原沼田んぼも今年度から再来年度にかけて(仮称)新しい村として生まれ変わる予定です。笠原沼田んぼの今の姿を目に焼き付けておきたいものです。

この企画展にあわせて、笠原沼にかかわる講座や現地見学会、見沼代用水を巡るバスツアーなども計画しています。詳しくは広報で。

期間 2月9日(火)～3月28日(日)

会場 宮代町郷土資料館特別展示室



来館者の声～特別展「江戸時代の旅と絵馬」から～◇長野県松本市から旅行中立ち寄ったのですが、面白い企画で楽しく拝見しました。◇江戸時代の旅模様が垣間見たような気がします。◇珍しい物が見られて説明してくれてうれしかった。◇宮代町にも「奥の細道」に負けない旅人がいて、日記も細かく書いてあり驚きました。◇係の人の説明もわかり易くとても勉強になりました。◇ご来館いただきありがとうございました。

資料寄贈者名簿

平成11年8月から11月までに、下記の皆様が郷土資料館へ歴史や文化に関する資料をご提供いただきました。厚く御礼申し上げます。(50音順)

金子松太郎氏 民具(荷車 他)
後上幸子氏 民具(ひな人形 他)
戸田弥三郎氏 民具(獅子頭)
中村忠男氏 民具(タンス 他)
矢部 豊氏 民具(瓦 他)

今後も昔を物語る様々な資料を収集してまいります。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

資料館日誌抄

《平成11年》9/1～10/31

- 9. 2 町史編集委員会議
- 9.10 町史文献部会
- 9.18 百間中学校文化祭体験学習講座
(拓本教室・展示説明)
- 9.22 彩の国いきがい大学見学
- 9.24 中秋の名月お月見会
- 9.25 町史民俗部会
- 9.27 笠原小学校4年生見学
- 10.14 町史編集委員会議
- 10.16 演奏会「琵琶のしらべ」
- 10.17 企画展「古代の道仏ムラと姫宮神社古墳」展示説明会
- 10.24 企画展「古代の道仏ムラと姫宮神社古墳」終了

※ 他に民俗調査、金石調査を行っています。

宮代町郷土資料館だより えんがわ 第17号

発行日 平成11年12月1日

発行 宮代町郷土資料館

〒345-0817

埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

TEL 0480-34-8882

HP <http://www1.sphere.ne.jp/miyasiro/musiam/top.html>